

# 生徒どうしの対話や意見の交流を基に国際理解を深める取組

## 広島県立三次高等学校

### 1 取組の概要

本校では、グローバルな視点・知見を持って地域社会への貢献を志す生徒を育成することを目標とし、キャリア教育の一環として国際交流活動に積極的に取り組んでいる。国や民族を超えた視点で、世界における社会、経済、環境に関する問題の解決を図り、平和な社会を築いていくためには、それぞれの考えについてお互いに理解を深めることが重要となる。立場や考え方の違う人々を理解し、世界平和の担い手としての生徒を育成することは、持続可能な社会の担い手を育成することとも重なる考える。

以上のような考えのもと、本校では国際理解を深める機会をできるだけ多く設け、主いその中で平和教育に関わる取組を行っている。具体的には、姉妹校である台湾の国立新竹高級中学との交流、姉妹校をはじめとした台湾修学旅行における生徒交流、米国への海外インターンシップ生の派遣、米国空軍士官学校カデット生のインターンシップ受入、外部団体からの交換留学生の受入などが挙げられる。

### 2 本実践事例について

#### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校では様々な国際交流の取組を行ってきている。交流を単なる時間と経験の共有に終わらせず、できる限り生徒どうしが直接経験や思いを共有する場面を設け、同年代の者どうしが平和な社会の担い手としてできることを考え、意識を高める機会にしたいと考えている。

姉妹校との交流においては、歓迎式の後半にお互いの学校についてプレゼンテーションを行い、その後にパネルディスカッションを行う機会を設けた。本校代表者と姉妹校代表者の間で、パネルで用意されたトピックやお互いの知りたい項目について質問をし合い、お互いがそれに答えるという活動を行った。互いの学校生活に関する身近な質問から、将来の担い手として何をやっていくべきかなど大きなテーマまで幅広い意見交換が行われた。

米国空軍士官学校カデット生との交流においては、3学年の英語の授業において、「バイリンガルプレゼンテーション・ディスカッション」を行った。カデット生が日本滞在中の経験について日本語でプレゼンテーションを行い、本校生徒の海外インターンシップ参加者が米国滞在を通して学んだことについて英語でプレゼンテーションを行った。その後、カデット生と本校生徒を含む小グループに分かれ、「国際交流において核となる価値とは」をテーマに話し合った。その中では flexibility (柔軟性)・trust (信頼)・patience (忍耐) understanding (理解) などの意見が出された。

#### (2) 指導のポイント

- ☆ 日本以外の国や地域の同年代の人たちが、どのようなことを考えているのかについて、直接の対話を通じて実感しながら互いの思いを共有させる。(付けさせたい力2)
- ☆ 日常的なことから広く世の中に関することまで話題を生徒に提示し、質問を考えさせる。また、代表者以外からも質問が出るように呼びかけを行わせる。(付けさせたい力1)

### 3 本事例の指導計画

#### (1) ねらい

生徒どうしが体験や思いについて互いに発表し、直接対話することを通じて、互いの思いや価値観などについて交流を深め、国際交流に必要な態度や資質を身に付け、平和な社会の担い手となるきっかけを作る。

#### (2) 対象学年 全学年

	主な学習活動	指導上の留意事項
第一次 6月中旬 まで	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際問題・異文化理解に関する文章（英語・日本語）などを読み、国際理解についての事前学習を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科，地歴公民科，英語科等と連携し，教科横断的な取組として行う。</li> </ul>
第二次 6月中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流の取組について，相手に伝えたい体験や発見について整理し，プレゼンテーションの準備を行う。</li> <li>相手に聞きたいことを整理し，質問を準備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝えたいことが伝わるような構成・表現になっているか，また知りたいことが相手からの確に引き出せるような質問になっているかを確認させ，適宜指導を行う。</li> <li>特に英語面での指導を英語科やALTとの連携により進める。</li> </ul>
第三次 6月中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際理解のための取組（海外体験を通して学んだことや自国の文化や自校の取組など）について双方よりプレゼンテーションを行い，お互いが行ってきた体験や学習からどのようなことを学び，どのようなことを感じたのかを共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションに関わる指導（PCを用いた視覚教材の使い方，効果的な読み方，話し方等）を行う。</li> </ul>
2限 連続		
第四次	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校生活について」「将来の夢について」「お互いの国や文化について知りたいこと」「国際理解を進めるにあたって必要な価値観について」などについてグループ内で意見の交流を行う。もしくは代表者によるパネルディスカッションを行う。</li> <li>それぞれの学びの振り返りと学びの共有を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループや代表者の間での議論がスムーズに進むよう，出されている意見をもとに必要であれば助言を与える。</li> <li>指導者による議論のまとめを行う。</li> </ul>

### 4 生徒の反応（授業後の感想）

- 「異文化を 直接見ると 気付くこと 人の優しさ万国共通」（姉妹校交流・本校生徒制作短歌）
- 「体験を自分のものだけにせず，皆に伝え，より多くの人に国際交流に関心をもってもらいたい。」（カデット生交流・本校生徒感想）
- “Even if how we act is different, we are all human and communication is possible so long as we maintain an open mind and an open heart” 「行動の仕方が異なっても我々はみな同じ人間であり，心を広くもっていれば意思の疎通は十分可能だということが分かった」（カデット生交流・米国生徒感想）

